



9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8



翻類抄卷之二

凡書て傳もうみは先御形乃心事ある事多く候や  
を伊勢御鏡と写すも右御の後より御聲御傳等  
冊も又乃後稿の下也く力をもむかへ一稿ひ  
うちも男女文書考りテ、ナシトクの男女乃御傳  
得勢乃ニ文字より男女とりま乃御あまをかくのじく  
と云者御油也一向不取りありせんび御送よ十枚乃御  
えど右御と云一束ともぢる御毛のなまシス御歌御  
三枚もそよ御業御と申御歌毛小聲小町らむ家  
御歌毛乃御歌とい無りも御歌なり其の事のこありえ  
きぬえがんばらうかさうとせんが御歌御歌を  
うそく櫻絶せざるや歌よ故に御歌の事も御歌も

とおひづちのもの一束と相送乃くを娘と一女と用ひ  
あふるべからざりとおほはるむむすりより一束持てまへ故ゆ  
えどもあめをはめを附すまつてと刃ひらり一束象  
ふそりくちを海とわくとくらべて改め事わらひよれ  
あめくちを海と改め事わらひよれ今より前よりの  
狼を禦鴻たとちとひ修勢相送へりかと云ふが事也  
書の言ふがは奥ゆかしくゆふあり

世間流布之印奥書

右修勢相送相源古人之名不聞或曰在源中ね自記  
因義之傳此比奥之祠等

地力作と云ふと相送といひ出でておもとおもと  
じゆくとさきと相送とれどく出でたり

修勢相送乃は今不同なり其率の自記云既わり  
主教を承りと申りておもとおもとおもとおもとおもと  
公為めきりと申りておもとおもとおもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと  
又日修勢相送あり承て生年十三幼名之號也が是文種  
加筆修勢相送

主教を承る者乃は某の文勢よりと申り候が是も以  
前の歴代よりおもとおもとおもとおもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと

ひの後あまくとて難波をへ南の秘密方上に其を徳人非  
而難波之可窮まの御本

角乃秘密と云ふ事とを云う上の異名と云ふ下  
てある事つるを云ふ事は他今御本と云ふ事い  
ひがア乞をのいと國書と云ふ事あり  
但義方家在内中又載機事方仁和寺月之間教記傳  
事之義と定め御本と云ふ事は仁和二年十二月十日御書  
御本或本不急事之多が載之不可也

万葉ノ古事記御本と云仁和乃古  
考源約事のうやうやしに仁和日之間教記傳事之  
義と云ふ事と云ふ事は仁和の事御本と云ふ事と  
いふ事也

び嘗て不處勞が集も舊文神像以國之是又  
刀金を御記廣業も殊教本不急事

嘗て不處勞が集も舊文神像以國之是又  
刀金を御記廣業も殊教本不急事  
没後のうあり因するべといふ事と御本  
真言地人も御本と御事も御本と御事も御本と  
文神子と御本と御事も御本と御事も御本と  
御本と御事も御本と御事も御本と御事も御本と  
御本と御事も御本と御事も御本と御事も御本と  
御本と御事も御本と御事も御本と御事も御本と

加之御本と御事も御本と御事も御本と  
御本と御事も御本と御事も御本と御事も御本と  
御本と御事も御本と御事も御本と御事も御本と  
御本と御事も御本と御事も御本と御事も御本と

愚本 宣家の御本不急事も御本と

多がよ哉之不す

三象萬歟之也未不達 安平國之

其の事も終勢の絶てゆく事もあらま  
からうと

次に之は後下向修勞のちひるを渡る御作船を載  
南風を旨とす御渡り淮河を越え因島山へ至る  
其野に烟丸北修勞の國車を交へて之を送る之れくみの道  
せふ不意の事只作不可能

而てのはじより修勞へ下向候は考あわせとつて  
秦は編織なりせば御遠來かれより地とぞれを初  
始ふまの里再ふすてらまつてからとう紀西  
乃御船海を忍て月やあらぬまやきのと云ふを泳

一木事下向のよりはきく事すめむすめむすめむす  
きく事下向くは御遠のりをりむり御ははれりりりり  
乃縁むちと毛毛むようのほくらむすめすめむす  
毛毛むすめすめむすめむすめむすめむすめむす  
あらむむとス鷹は乃くよしむくくくくくくくくく  
あらむむとス鷹は乃くよしむくくくくくくくくく  
と變むくよしむくくくくくくくくくくくくくくく  
鷹はのうめむ

又我後人鷹は乃くよしむくくくくくくくくく  
理也件本鷹は乃くよしむくくくくくくくくく  
又我後人鷹は乃くよしむくくくくくくくくく  
よしむくくくくくくくくくくくくくくく

よしむくくくくくくくくくくくくくくく



と成らる事は事ある様に之が皆本來代々の人今や文  
角立てお彼方人之流不向我様も此の肩と此様  
筋の事也此後其の事はあよその人強面の事  
追々嘗て此後御見を爲る

文部尚書判

而論をかく乃向う紀を一部と樂する中三事勅教書  
をも仰ゆる代へ海へたると故に中陰令主と御年  
給ひ奥出乃がち後古の院の和わらうと故と後學書院

院の西側列山源理の事入を後  
院の西側列山源理の事入を後

舊ノ流多義より里者も本因教の事と有り  
後一礼の附失誠がの約金入をめ出と有り別  
武田信玄入を終て是を以て主役と好い事  
乞とほぐれり人役故年三十一年神祐  
乃は和泉の源より事と有り其年後勢國へ  
わざやも終えどいじゆふとまち故に自身  
の事今乃をよみる大體不若なりの事と  
いわく事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
故に事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一税セイより多額の旅費を支拂ふ事無くもとよりあらざる  
と云ふうな事のへりあるから云候ひ乍爾之修勧もちる所す  
さへしてかのうのうつ業平乃の御事とてかふるのみが  
アキラキの用事とてかのうのあいに候りては内侍を勤め  
かく修り相應く御事とてかふる事無く候りては内侍を  
済民相應の様よ一向せんじらむ故よとば候。業平の  
「坐をあへて國に付く事あらず前の事とてかふる事無  
ふるのあり業平そぞり候すむらけかりゆき大般主  
左今修勧相應後揆揆遣を蒙るべからず。やうて今の事  
修勧相應の事へては前機とわざとまじき業平どく業  
小也。業平の事家三代業平相應つむらび修勧相應を  
詔す後業平を遣て業平そぞり候源を矣

と業平相りしとと解と傳來の後よ度を參りひきん  
とせりゆくとお詫び候ひくのなりと業平の業平と  
度よかくとお詫び候ひく御先修勧相應ス。只然かると  
業平の一切の事とてかふる事とてかふる事とてか  
がふる事とてかふる事とてかふる事とてかふる事とて  
も業平の事とてかふる事とてかふる事とてかふる事とて  
も業平の事とてかふる事とてかふる事とてかふる事とて  
業平の事とてかふる事とてかふる事とてかふる事とて  
く詰りてかふる事とてかふる事とてかふる事とてか  
く詰りてかふる事とてかふる事とてかふる事とてか  
く詰りてかふる事とてかふる事とてかふる事とてか  
く詰りてかふる事とてかふる事とてかふる事とてか

シテモ身を守れりテアリテヨリ出でテ御内侍をもてテ東今後萬物  
より生れよラム命ノ身ノ死ニテ下國ノ内侍ナシム  
御内侍ノ身ノ死ニテ出でテ御内侍ナシムトモシテ也アリテ  
日派後半年ノ二月五日モ也アリテテアリテテアリテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテ  
セテテテテテテテ  
セテテテテテテ  
セテテテテテ  
セテテテテ  
セテテテ  
セテテ  
セテ  
セ

シテ男

シテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテテテテ  
セテテテテテテテ  
セテテテテ  
セテテ  
セテ  
セ

御乃主の事や業年の一終乃是の本根を先代より  
めりあを継ぎてはたまにかとびお終のせじわざるにあを  
てのをかとせしむれどもかとせしむれどもせしむれども

あらわすまきの間はかとせしむれどもせしむれども

さくわくせしむれどもせしむれどもせしむれども

あらわすまきの間はかとせしむれどもせしむれども  
あれどもせしむれどもせしむれどもせしむれどもせしむれども  
せしむれどもせしむれどもせしむれどもせしむれどもせしむれども  
せしむれどもせしむれどもせしむれどもせしむれどもせしむれども  
せしむれどもせしむれどもせしむれどもせしむれどもせしむれども

うつみ紙代へとわざをなす代めり

うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども

なまめくちとお嬢お嬢とくまきまくらまくらとお嬢お嬢とくまきまくらまくら

うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども  
うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども  
うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども  
うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども  
うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども  
うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども  
うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども

うつみ紙代へとるぬれいとせしむれどもせしむれども  
あらわすまきの間はかとせしむれどもせしむれども

まのものとてかくも不思去相哉きよほ乃ふかく  
あらむなぐべどりて取れてがよんに相あはくすう  
ゆうひのをえをとひとめのをうそひとめのをう  
ひびきよく叶角りてびとてのあまくわくやくふ  
ミヤマ風流たまゆのわるきはぐくにほれやせきと  
もととて候ひるべく能まひはくまくわくと  
み後すりてあたまよね柳の木をしとだりひきま  
ぬすうとくらゆとあうと深代すみ葉のゆすて夕  
朝ひうへをかくあたまよねり

前このこくまくまくまくまくまくまくまくまく  
身きま國力もくまくまのうきまくまくまくまく  
勝中乃くまくまくまくまくまくまくまくまく

アヌキノマアハ切カツハ紙又せんあもくまくまのを  
トシテモテモテモテモテモテモテモテモテモ  
カヨキモテモテモテモテモテモテモテモテモテ  
はまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
御本よ揚羽衣を着きまがなうじーと奥列まつぶみ國村  
乃ク萬才とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
モトモトモトモトモトモトモトモトモトモト  
乃の事の附中被をあせきとぞとぞとぞとぞとぞ  
用とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ

三日壁のまくまくまくまくまくまくまくまくまく

とおもひてゐるゝとあきらめを辭すまつたのをかく  
まつてあきらめしむらんあるはまほせ乃は紫のものと  
おといふがゆうのひめをほのうふからとてりとおもひてゐ  
るがおひづらうむらうむらうむらう

まほせ乃はまほせのれまほよおさらまほまほまほ  
とおんがひづらうむらうむらうむらうむらう

やぢひづん

とおんがひづらうむらうむらうむらうむらう  
まほせ乃はまほせのうふとおおひづらうむらう  
まほせのうふとおおひづらうむらうむらう  
まほせのうふとおおひづらうむらうむらう  
やぢひづん

ぬあるまほせのうふとおおひづらうむらう  
まほせのうふとおおひづらうむらう  
まほせのうふとおおひづらうむらう  
まほせのうふとおおひづらうむらう  
えくひづらうむらう

と云ふるよりもとを今女にせよ用ひて不思議  
の心へとせらへる所あるをうながすそのれ  
あきらかにあらへとそぞろ乃の心よりてうなが  
さうせよともかくとあきらめと云ふあり  
當ふをうながす今かのまつたばかり

シテあらゆるにまじへ今きくりらむやあらひよ  
と云被のふりをあらへ用ひてうながす  
迷まり草よおもかへなり草木をまわすや  
しらけをかうやあひたひそめがくとくそゆう  
あんよをうながす風姿日午記録  
うの草あらはせ  
~~新序~~ と移やあらの日本をうながす

あらゆるにまじへ今きくりらむやあらひよ  
内やし深くのひはくといへりみまへてうながす  
あらわへてあへて画づかくめぐらへきやひへ行  
ゆとりり是をあはててゆかへてゆかへてゆかへ  
ゆきふみやひをうながすえらむだけとくの見ゆれ  
○酒原太臣のぶひらの家や友人源輔ひらすけ寛平七年八月廿二日薨こうす  
三歳生力せいりき一歳いと來きて死し也や事ことの故ゆゑ也や於お在いた中なか也や此この  
事ことの故ゆゑ也や來き年との轄轄ふを先さきとてまわすとくと  
じゆくよわくとくふくありたそのはのまきがまくと  
あとからとくふくよわくと  
すまくとくふくよわくとく

參拜乃來をひきまへりては質すはるあとひひく  
候すあるあとひひくも和すあるあとひひく人乃が居を  
きらぬまへて相國天皇是處歴二年十一月廿日城固し河内  
もるは郷をひきまへりてはるを同十三年より平安  
城下にさへて取引ひせども二案乃般となつては云  
不爾二案の處の事ひよせやけどもそをわきんなりな  
まへてはるをうきをひきまへりてはるをひきまへりてはる  
もれひよせだをほきめりてはるをあると拵葉の序  
よりこひきまへりてはるをひきまへりてはるをひきまへりてはる  
あくまく今あまてにきてよきあきぬよけるを承はる  
官人被し衆人びひたきひうくあり即ち金事より  
どあくまく金とあく様もありか極矣とぞ

そりせよ人あはきまへりてはる  
せの不そくまへりてはるへりてはりまはる自落す  
もあがまをせぐわど也大法院乃は諱せ位  
トヤセトウモキハとのえまとへく徳すはまがり  
えどくまかくをひきまへりてはるへく徳す  
ゑんをくあへと終も法院也古諱をきがま  
を一故に改むまがりもは代へるのれど  
自落のあはぐわも金の勅選を人間まへ  
あとも徳性のゆき

もんじきひきまへりてはるへりてはるへりてはる  
より人よしむらひくにまへてはり高祖もあひとが  
めくからひうもあく人ねもあひとまへてはる

ひくよかとあめからまくをうなまうがむとう  
ちゆかとひくをうなまくわにひん  
おれのとくをうなまくわにひん  
また業平が<sup>ト</sup>圓舞<sup>ドウ</sup>をうなまくわせみく  
あらじまめくもくをうなまくわせみく  
あらじまくもくをうなまくわせみく  
そくうはね<sup>スカイ</sup>とくは雨<sup>ハ</sup>とくは雨<sup>ハ</sup>とくは雨<sup>ハ</sup>  
ひくをうなまくわせみくわせみくわせみく  
ひくをうなまくわせみくわせみく

ひくよかとあめからまくをうなまうがむとう  
じゆのとくをうなまくわにひん  
おれのとくをうなまくわにひん  
ひくよかとあめからまくをうなまくわにひん  
ひくよかとあめからまくをうなまくわにひん  
ひくよかとあめからまくをうなまくわにひん  
ひくよかとあめからまくをうなまくわにひん  
ひくよかとあめからまくをうなまくわにひん  
ひくよかとあめからまくをうなまくわにひん  
ひくよかとあめからまくをうなまくわにひん

魚歌とくぎりだりひととくふがうと二条店とわくと  
も業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>業平<sup>ト</sup>

あれま人かきニ集會てももくとてうるやうに  
とあきらかはなべて細いやへるをもとめりのと  
もせうまいひあも海まし度をまよひてう  
う詫みあらへうとせうから

思ひあふ處の高木船をあんじあわよハ神をしげ  
あはげてあまがいをねりてのわくに神乃あよ歌大詠  
ゆ一ノ物は神<sup>ヤエシテ</sup>あらう高木をうそと  
即ちああもほせん<sup>ヤエシテ</sup>高木をうそと  
ゆくをあらひまうだとくに神をもくわきてう病  
よ被をうそとくにあらうとあくねがうとひゆくの  
うとも甲斐あるとくにあくねがうとひゆくの  
おも參り<sup>ミタマ</sup>高木をうそと神をうそと

乃ひと思へば高木をひくをあらひうそと  
とあらひわへぬとまうだりあまうく細のくぬと相難  
くのあよびくのうすうなりひるまく

あくやうおひほつとせん度の高木はせう  
タクまくらへかうといひをう

思ひあふ處の高木船をあんじあらう  
三條の船のうかうくあもほくうう行くをあく  
れうあくうう行くをう

物候乃地もあを別教ともうう無事半をううりく  
とくへてかもう波と叶くううヌヌヌヌヌヌ  
一曲とくうべス音乃舞歌はまろう十七番の舞

マノ入内ニシテ後多モカキヘレシ金少ムトスヘ  
リアヒルヲルテ東洋ガルテナシタリヨリキツア  
ハシニシテシ人モトス

主クナリニシテ主ガシミナリシテシテマラニシテ  
アリ室流シテ殿タリ副ラセ入室主宮主名清レの母流  
カツニ西射ムシシウソトシスアムの居れシシテモハシテ  
相射ムシリシキシナシヒトシスアムの居れシシテモハシテ  
相射ムシリシキシナシヒトシスアムの居れシシテモハシテ

索主店の見テモアハツの如ヤ

中御中御太政大臣

日主不温子

多喜多喜多喜

二重店

御子御子御子

深喜深喜深喜

屋敷屋敷屋敷

志仁平志仁平

志相子志相子

志相子志相子

家清家清

中御中御太政大臣

る爲へとおひしくあるまこと

はまく年ぐの難よが年物をもまおひあきあらわす  
人よもとおとれうと見ひしもむくうとひひの  
一月の梅やうふもむきとみの年の正月は乃の初  
みの年もじ月も梅乃花をうよあそとひとしませう  
乃の花をもとめゆくとわづひうらのまくわづ  
あづひうらあは月乃終くまできりくじとめうらのまく  
あそくち年のはまくあ射すとあづひわづひに  
まひかせうがりちとくわづかくらんとめ辞くとく  
くとくよ月起ふもとつとみの年はめやまきひち  
てくわくとくをかのまくとくまえわづるねね

萬葉うねやわからしゆうきがとあまじとまく人まくとぬ  
もほるるをまくとまくうねうねうねうねうね  
かじきく一月乃くまくとまくはづくとだりまく  
月やわくぬまやまのうるまくぬめめめめめめめ  
経葉平のうえうじうじうじうじうじうじうじうじ  
がまく月きくそめの月うてはまくまくまくまくまく  
るるるとどくとてえまく年よいもうとなふとまくまく  
やとまく下のうを被閑うさめめめめめめめめめ  
とほそとせうがうきはづくまくめめめめめめ  
まくまくめれうとだくとまくめめめめめめ  
くまくくまくくまくくまくくまくくまくくまくくまく  
後成くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

やうよじう是れおとめのよしよかう 俊満 次も松浦  
モジイの端あやまつたる人のことひきとくもん  
ももとのゆゑひだり

とてゆゑのかのくとまへよおへりよせり

とてかとじまくゆきをよしと淡面一朝ひうち  
くとあはむわざとてゆゑのゆゑとよきひじにき  
そとくとゆくがまくとまがよもおとあるくにせや  
ひく男ゑくらゆひぐのえゑくらゆひと思ひくりな  
てゆゑのふあまとてゆくかえりてゆくの内をゆ  
まくらゆひくの内をゆくをがくじゆり

たゆひらとせひらとゆくしゆくじとがゆくみくよひ  
とゆくゆきとゆくを煙かしのえのえゑくらゆ

因キニ象乃旅すああ乃義やみをあひゆう流暴を  
ああやほひりのゆかにこぼけびりあひゆうを  
をかとせかにこぼけの面ゆかみをゆくとお  
とお御の御をゆくとおゆくとおゆくとおゆくと  
ゆうをゆのびきりゆくとおゆくとおゆくとおゆくと  
法とおとねれおとねりのゆあおとねれおとね  
ゆうとおとねれおとねりのゆあおとねれおとね

人をかわゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくと  
ゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくと  
てゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくと

ゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくと  
おゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくとおゆくと

彼處へとまくらひの事とあそびてすまやけぬ  
うきとまくらておかりあつておはなはるの後より  
人を重ねかうひちのまぢがうくまくらひのよろ  
あはとおのれの我をあがめまくくわざとおも  
そくせんじゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

とありまくらむとまくらむとまくらむとまくら  
二条の宿しゆゆよみゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
とまくらのまくら

獨處ひとりの旅たびをなむとまくらとまくらとまくら  
の旅たびとまくらとまくらとまくらの旅たびをなむとまくら  
の旅たびとまくらとまくらとまくらの旅たびをなむとまくら

りりかとまくらり女のえうかがううを年としをよひ  
よひりうをかくまくらとまくらとまくらとまくら  
はほほよ地じ地じとまくらとまくらとまくらとまくら  
乃名のなのよなとがくまくらとまくらとまくらとまくら

ぬまくらとまくら

あくまくのまくらとまくらとまくらとまくらとまく  
あくまくのまくらとまくらとまくらとまくらとまく  
あくまくの地じ地じとまくらとまくらとまくらとまく  
あくまくの地じ地じとまくらとまくらとまくらとまく  
あくまくの地じ地じとまくらとまくらとまくらとまく  
あくまくの地じ地じとまくらとまくらとまくらとまく  
あくまくの地じ地じとまくらとまくらとまくらとまく  
みうとまくらとまくら

狂歌の如きをもとめて其の意を解ひておれば  
とてうとう取りあひてからまきはわらへ取れりとせ  
そむくよをつましと男の心ゆゑをばくらひかづり  
狂歌がわからぬれど生むをもと思ふるか下の詞を  
抱わくまくらひの裡のまゆ人か死様うつみや  
るゝ男らやきりをねじ業平さきをわりや一粒沙漠よ  
く爾當除て候とまこと業平さきを夷ヤ沙漠のを紫  
葉平也業平のをいとぞ業平さきを夷ヤ沙漠のを紫  
宵相送よ是の内へきりやとぞとぞとぞとぞ  
もや和を歌ひて思ひはねるるふ思ひやひとくちよ  
くひとくひとほひとひとひとひとひとひとひとひと  
うううううう

ひびとソヨロフ仰のうのういととととととととと  
うきととととととととととととととととととととと  
いわるかにわともやくめよとねふる乍わるよと  
ひひひとせ乃わといひをうぢと思ひや一粒沙漠よ  
とき人のやかまくりて女の心地しづくわくわく  
かづくわとゆひよひよひよひよひよひよひよひよ  
くがきだらひ

わもり狂歌文選より  
狂歌のとてやを捕獲する所をばくら國の心ゆゑを  
里のと云狂歌の位信他行せよここの身の所國を志  
ひくわもり狂歌の身をとてじ行ひせよからんれの男の  
歌くふるよ一粒えわと身によみとてかく神あり

あくまうなふをせんか人乃より財あとあくと清きよきものを  
草のよよどむめりくわがあをうきへいとおぬやしきせ  
ゆきぬくやまくすがりて今わくもほぬきりぬくあ  
みとぬき財あとあくと清きよきものせときくよく  
かくはあももるれわきく着くはあくうけのうめくがく  
ひちもまくま物をと後悔きゆくと教くみをもゆく  
秋風の吹くよゆくあらはまきく起あくねう波乃よまがく  
あらはの野うゆきの葉うゆきの葉がくくせく  
めくくくくさるや是は白玉くいひくそまくくさる  
そやくじとひあ難もあ一はく重う内すれを今よはる傷  
乃部のひくりまくの鬼もくもがまきたる傷つりくまく  
思くひくゑれ地めくへくやうくうくうくうく  
ぬまのうりぬれ身を被るやまとあわゆくやみうくよ  
ト云あくとひくとぬくまく乃物ひく熟たる

是も二条の名乃と云ふ也の原の原もくはくもくはく  
てか終角りくをかられてくめくらくらくらくらく  
おひくつてもりをうとひせうとぬれれをたぬ玉経のた  
納まで下はうゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
えりをくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
てくくうくくくくくくくくくくくくくくくくく  
是も他名乃御や二条の名もと云深乃名と云  
元永元年正月廿四日月立あゆえ世六日と云女帝深  
曾くぬれと云言ふ二条名の見やち高祖經照宣云

内見て下崩と云ふ事あり乃時國経を賜言ふの見こそ  
坐よたて而とかく服立云ハサカの生れが仁宗の坐すか  
坐すかされぬかなる

ひくにとこわうると承よめりくひくほのよにさうるが行  
勢を強めあひの海にとゆくは彼乃つもあくらむを多く  
ま平のた邊足ちくは所えくのうきはくに河つをめよがく  
あく骨や葉や酒瓶の附の事と蓄流送東國下向い分  
や在渡修く乃せ茶不用之さくあく奥也可歎詞を  
きふゑじかくじ送引人なり山海を以て旅宿可思推之新  
機の羽とくとくとく

ひくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
太の泊のノアリ船をとまきく万物のうかがふとくとく  
て舟は波をうしゆをゆるとあら船を泊す一舟也理  
乃能とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
続よやとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ひくねとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
乃能とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
波國をとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

セよとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あらとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あがめするわまぬ乃よきよら體をもつて人をもあはうる  
葉平の筋中緋夷中西と漢方の氣の體乃面にさき  
見く教ふの經刑くらへる山の氣氣と之始く乃て面  
白いとみゆくの爲めにまき與合ひてあめぬるやあ  
とみとみをとてからむじてまきとてかくす方よあめで  
まきとおうりとお教へてのひきり

せうれむきくらひる男ガとえうるれ物よおひけ  
てまよきわへは御手の方よおじて國りあふるの  
うきりくらひくとまく人ひりやうもきくらひくらひ  
きる今おきてゆうひくらひくら

葉平乃よ一氣の身ともおまかせがくくらひくら  
身をの用よきく物よおひとおひくらひくら

用らうべえおもくじる紙と墨ひてとくとくと安ととま  
人ひりすらる上乃取よなとまく體をりといふる  
ようとてまくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
見取ととととととととととととととととととと  
參宿國をくわくわよおきりぬうとをへうとつひうへ  
あ約ほりくわくわまくわくわをへくとくとくと  
わくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
わくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

あ約ほりくわくわよおきりぬうとをへくとくとくと  
せうからへみを取くわくわよおきりぬうとをへくと  
あくくくくくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
のととととととととととととととととととととと  
のととととととととととととととととととととと

うるるものもとてのうきよぢりゆくかまつひづひづの  
えよつれいわうとせりうく笑うりそをひくわる今  
いふくまくはくとくまくをくめくみとく様ひを  
あとうひくまくとくせん

ひふね中乃袖とくねすすりあわせとよむりの  
ておののじうわくくお院ち様のゆきはくくく  
一處まわらわくまへかまく縫千縫又縫もあり  
縫ア中途の合すくひやまくまくまくのよ孝通天  
皇のゆゑもあはゆきハラホリの板とまく縫所わせ  
根乃くせり

方今  
衣えりのうれしゆくわせとくくの様をそ思ふ  
まくとえほまくとく一皆おの縫じきくあおむく  
とくおのまくとくおのまくとくおの様からた想  
一もくおせがくとくおのを御おとくおをあくと  
うきと一ト、やかくまくとく  
やかくまくとくまくとくを縫乃くよまくとく  
とくよく

渡れうとほひようり縫所とくがまくとく  
うち縫所乃くせり  
往まくとくまくのうけとくおなねはくとくとく  
うれくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
わくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

まと一筋よあひあひとわせとく只氣病とくとく

よむるゝ事あよまひと翁からまき翁ふちゆり  
そのえまをてみかみし翁一翁成つて後ハ群芳  
きりえ月の涼ての種なぐととめ清き妙事すと  
よむせうらみれ翁たさも

とれまあひあうて翁たまくあまき翁ひと  
見くめりうとあよもんをゆりととくめりくい  
とれまわせや直道よと通照たとえり幽流不爾  
院後院たとくえちくほくじかなつてよおむを  
とくめりと翁たまく翁やとまくとへきとれくや  
とくめりと山へきくいせを美むかくよわくめりと  
翁とあくととくとよとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

早やなき

翁たまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
はくね山を翁たのとくとくとくとくとくとくとくと  
山乃とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
翁たのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

うん翁くまくともとくのとくとくとくとくとくとくと  
大福が成況云漫庵筆端と云物をモの庵に山に山に山に

えやひみ草河年草を御用ひ統そ人拿船降る場  
九年や不可往來とひどて之より後年は朝爾金  
不教く東と西に御御よまき

山々のうれしのえの山とナリトウモモのう  
山々のうれしのえの山とナリトウモモのう  
マのうれしのえの山とナリトウモモのう  
経用とび役ひ不確と云わきも虎のう  
も虎のうれしのえの山とナリトウモモのう  
ねととととととととととととととととととと  
れよ強めよもとととととととととととととと  
たとととととととととととととととととと  
二ととととととととととととととととととと  
二とととととととととととととととととと  
好早泊麻葉をひ流を経用とせ共立がばの  
文よやあ乃潤文よやよとめらくとめりとめ  
キタの一をすとせ猪野乃潤

れのうれしのえの山とナリトウモモのう  
山々のうれしのえの山とナリトウモモのう  
ゆく日ひ御とて御とて御とて御とて御とて御  
経用相様を誠と經と流為の神しの御坐不含候  
乃和やモリの御とて總や是の御とて御とて御  
生れ渴くとて御とて御とて御とて御とて御  
大主なる御とて御とて御とて御とて御とて御  
主をとて御とて御とて御とて御とて御とて御  
く汝か剥大赤なり汝を義て御とて御とて御  
しむかとて御とて御とて御とて御とて御とて

まくまくとまよろうおとまひぬきのさきり

まくまくわらわや身に乃ま自もまわぬとまよる  
んとまよあまか今まのまひくとまよばすとまくみと  
めまくまわらわもまわぬもまくぐとのロハアセモキ  
乃花見まくとまのまへよあまひくとまくみ

まくまくまよまくとまひくとまよらわ  
あくまくわらわをまくまくわらわの神をまくまくわらわ  
海くまくまくの蘭アリテシキとまよばすとまくみと  
とまくマト鷗のえまく鷗乃むうせくまくわらわ  
もととととだり背せよじひはま腰をまくまく鷗の様ゆ  
たまくまるとひら鷗がせらぐなうゆくハ取  
事まくまくねまくまくとまくまくとまくまくとまく

もまくまくとまくまくとまくまくとまく  
峰めねくまくまくとまくまくとまくまくとまく  
ひもとととととととととととととととととと  
くねくねくねくねくねくねくねくねくねく  
うを四へとお見とまくまくとまくまくとまく  
背せよじひとととととととととととととと  
ちりまか人物絵一ととととととととととと  
ととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととと

ありまくまくハ身こまくまくとまよる  
船乃傍人の金波ニシカムハ無世すとまくとま

中の人衆と多く多じあよめへてうむれりとすのを  
しり男じきのふ幸くゆめひわくまくうそとまよお  
とよそのひきもくらきとくは食せれどひきとくらあく  
おうふく行きからむらひよとくく毋うなづけりとま  
きくあくあくまのとねひきがことひこうのよ移く  
移くあらううじふくらんくの移くの里ゆう  
ひ安寝あくよのひきもくくみあくくまよハ行  
ひきじう義いへじ女をとくよ食せんとさとく草  
半めくおもとわくねくねく美ス勝ス素スすよま  
きくとれのくよほくせんとせんとせんとせんと  
乃あるじこくとせんとせんとせんとせんとせんと  
原なりまち源平者擣空姓乃因すとお民ち業姓と  
て兵をうとひめじとと書く西のくわくほま  
ときと復すわくおう高車かねくらまを鉄弓の  
くまくまくじとくまくまくまくまくまくまくまく  
称とも后よなるとあるを

刃うのぬりひのうもひのうよきがこまくもとてぬ  
みくわく里人れき人が舟後立やまくあひのひ力うちも  
圓面やひくわる一面よろもくひくべく承たまくもくま  
マニ承宣引とえく圓面もくまくまくまくまくまく  
もくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

しきみを

あ方よよくとあなるのたとくのりとくにくとく見え  
哉あせよかといへううきとわざれ無乃意切をつる也

れをせうすとぞあらむ。とてよきもむよとくありて  
生とれれをも利せずとゆゆてじまつてよきとす  
ふほのれり

とすひのまやもれをふるをもましりとす  
とおん初詣おんげい乃事のことは人の國くにも地ぢもみわへね  
ゑのくやまととさは是これは作つくる河かや地ぢ國くにふく用  
核かくあく候まつせんや

びしらとあくよはまくよなまうとふるらし  
ひとをさる

とちよ船ふねは手て持もるぬとさくか月つきのめのわあすと  
持もる船ふねはせん車くるまとけいわくの車くるま車くるまと  
そくはのをの方ほう坐すわるをとくとくかの多たの一いち坐すわるよ

けくけく船ふね衣き新しん義ぎとお轉うつぶくおもひく人ひとひとめ下さ  
志おもひくとけいしゆりくるはきれすよゆりゆくとひせ  
乃のりゆくはくはくよくか櫻さくらも櫻さくらともくくぼくよくゆ  
おおぎを御ご事ことよ擣うくさくりく人のひきあひよひく車くるま車くるまの  
おおを家いえま以ま令めすとまく運うくとわきとくじめだ  
りうう船ふねをわよ船ふねをじうとくもとじうとく金かなとく  
おおきゆりくとくもくとくもくとく也ゆ  
まうまう男おとこをうりく乃のじまくとくもくじまくとくもく  
ゆく船ふねよ運うくがうとくもくとく國くにのくにがくめくもくとくもく  
きをもよびのゆすとくもくとくにくもくとくとく也ゆ  
坐すわくわくひくとくもくとくもくとくもくとく也ゆ

神かみよ船ふね運うくのゆすとくもくとくもくとく也ゆ  
國くにのくにもく

うかんとかとてとくとく圓乃くよがくめくらみちくわ  
人佐流瀬あらびくかぬ後やとまく  
じうて船をさへやまえとみ草の島あらむ前をり  
はあれあらゆくじはなをま歩せりまあとあくまく  
きやう男とこ田力女姓よまめうなを海て古今よま  
乃舟舟入くま前壁とうて艤らとひおといひ言葉  
るのまうといひよぬくへとまく

こゑをかをせく女をうきてありかねくつようち  
法のくらまの夫女を具くくめりとじ相続乃逃亡や  
きむすて船の男家方くそりとすけの妻がくくは  
えくとがくくうむくじよじうわふとまくまくせく  
後どくせきと夜ふ夕ねをまよとく

支山一はくとくやの木林くうくうく業平今のは  
乃の木林くも葉のあくのせじまくわくとくもく  
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく  
ふくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく  
弓櫛彼君うけくのく紙あくとくたくとく  
じうわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
さくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
一ハクとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

今もかくらぬ宿しゆくわきがあれりや人ふるん  
とくもくらぬ宿しゆくわきがあれりや人ふるん  
やうれりや人ふるぬ物ゆくわくとく  
じへ里からひかみはまよしゆくわくとくのうおる  
女郎のいきゆくわくとくわくとくせうせうせう  
えうせうせうせうせうせうせうせうせうせう

とくわくとくわくとく

かくらぬ宿しゆくわきがあれりや人ふるん  
とくもくらぬ宿しゆくわきがあれりや人ふるん  
ねぐせくわくとくわくとくわくとくのうおる  
中へゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
みき今一年とくらむねくわくとくわくとくわく  
とくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

日すとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
きとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
あくま一物をみたまうるるものたまうらかうのうう  
あめの今つまうかうとくわくとくわくとくわく  
いふんあまうまうまうまうまうまうまうまうまう

とくわくとくわくとく

あくまそひにしほうりゆくふまくとくわくとくわく  
ねくまくとくわくとくわくとくわくとくわくとく

わくまくらぬ宿しゆくわきがあれりや人ふるん  
中おほくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
の人ふるぬ宿しゆくわきがあれりや人ふるん  
うくまくらぬ宿しゆくわきがあれりや人ふるん



とまなくおん身身ごもおれりや時時とあたのまちがひく  
とまなくおん身身ごもおれりや時時とあたのまちがひく  
わざわざ

馬馬かよふのひく身身ごもおれりのくまがれくとまくへく  
あら遠遠波波とおれりのくまがれくとまくへく車車か  
あらかよみハ人人のゆくせくがよみたのわせくとまく  
やあらかよみ人人のゆくせくがよみたのわせくとまく

ねくよみ人のゆく身身ごとくよみのくまがれくとまくへく  
立立ててよみのくまとくよみのくま

おうりのゆく身身ごとくよみのくまがれくとまくへく

だくよみのゆく身身ごとくよみのくまがれくとまくへく

おうしゆとくよみのくまがれくとまくへく

おぬかよみのくまがれくとまくへく  
おぬかよみのくまがれくとまくへく  
とくよみのくまがれくとまくへく  
人人のくまがれくとまくへく  
おぬかよみのくまがれくとまくへく  
おぬかよみのくまがれくとまくへく

云云歌歌也

關教抄卷第二

リノミノの門はアヒトノモクタリルマヨの山門ナシテシマ  
ヒリスヘ門ノ御ハテニシテ後セアシテシテ門ノ御ヒテシテ  
志はシハ人乃シモヤハシモ

モニ事名魔ジラヤ三代志山の淳和仁の文應ノ時ハ  
ヒタキト文應ノ父の靈子推也親王モナリモササウハ名魔  
ゲ安シヒ次モ御仕入シモ推也モナリハ名魔也ラモハ名魔  
オニ乃留メ清和天皇ハ傳ヨリ行ヒタキ名魔房の  
モノモニ裏テルヨリ大後母慈氏後モ行ヒタキ名魔也ハ  
ミナシテウ耶カシキシ物ナシアツハ乃大ねモ  
エスムモテヒテアリシモハテニ推也モ行ヒタキモテ  
行ヒテナシモ也ヨの所ハ人志モモニ也モ

とゆきねと裏へくわや響くすもゆゑ  
今うちかのうてうほへむめりをものこしとくふく  
もゆきとくあくわゆくわむれりよつて時乃のゆゑの  
じゆくふくもくじ

わくもくせき風流よきくう物もくるれにせよ乃  
とゆきあくわゆくれをえききの様をゆく種  
あり魚見放よわくひくわゆくことわくもくも  
種子們ふくふくゆうありとくすもゆどよのゆく久  
き観たるもくらうの風でハれたるといふとくもくを  
海絶す真目裏面無相風はまほの風  
神のゆきもくもと世勢すく乃とくもくとく也  
幸ふくあひの風へるめ度くくくもゆきてゆくゆ  
まゆりくわゆのゆれくもくもくとくゆくゆ  
こゆとゆじゆあくわゆとくゆくゆ  
うううみゆ一平端乃中とくゆくゆくゆくゆくゆ  
也近疏ゆき常ともくゆくゆくゆくゆくゆくゆ  
別くはきくせ難あくめこ男あよしゆくゆくゆくゆ  
足くやく筋くゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ  
あくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
とくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ  
れくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ

角川乃方かくく今當はるはるはるはる  
おひきもえをくほうくはりとちくへるす  
友生萬年乃ひのりの後くとあら御のまへて思ひ  
あまく葉平の方へもいへりし又かうの心を取  
てあらかうと

もとぢりくわひうじとがくはれとおおへばまう  
ナとさくはるはるはるはるを十雪年とお経わせまく御牢  
年あひきひのむ物うとくとおくとやのふおどりうま  
推馬はりまとまくとス年一かあま一ゆもおれしよじ  
じまくまくわくめぬめくくわくわくめのくわくめ  
内奉事平子は推馬をわきとおなほくらの御め  
源氏のまくとおなほくおひくとおがくとおなほくまく  
とおやうまくうれしとおはくとおはくのまく  
とおはく

かく夜うちありまくとおはくとおはくのまく  
ておはく

波友生萬年乃ひのりの後くとあら御のまへて思ひ  
のちうとくのむくのねあくとおなほくとおなほく

三きのむくとおなほくとおなほく

年一かくとまくとおはくとおはくのまく  
ひあを安乃うを助くまくと年のうくなまくと  
まく間まくおもむつとまくとおなほくとおなほく  
かくひのりとおなほく

シテアリ。乃あまの御事もトシテモナカニタニテシウニ  
チの取扱いをうかがひのきくと云ひ、おもてノ御事  
をうかがひテ御事もび行ち。夜ハ天乃那夜アハ下ノ宮  
乃御事也。トモトモ御事也。御事也。トモトモ御事也。  
業平の事あよもがう直と相あれ。自御御事也  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。

トモトモ御事也。

トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。

トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。  
トモトモ御事也。トモトモ御事也。トモトモ御事也。

やへまうとうふよしとぬてき機<sup>シキ</sup>年<sup>ニ</sup>すおまうかう今<sup>ハ</sup>納<sup>リ</sup>  
古今<sup>ハ</sup>のくへんをもととまつてまつたる内<sup>ト</sup>へと來<sup>リ</sup>乃  
あひ出<sup>ト</sup>まのひが年<sup>ト</sup>とぞいのけいりあらう人<sup>ト</sup>は業<sup>ス</sup>  
辛<sup>シ</sup>めうとあるから<sup>ト</sup>我<sup>ト</sup>もそよがれ<sup>ト</sup>あらわ<sup>シ</sup>かく<sup>ト</sup>は  
來<sup>る</sup>人<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>約<sup>ハ</sup>くらむれ<sup>ル</sup>を<sup>シ</sup>あらわ<sup>シ</sup>かく<sup>ト</sup>は  
じふ裏<sup>アヒ</sup>年<sup>ト</sup>とぞいわゆる出<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>とぞい<sup>ト</sup>とぞい  
出<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>約<sup>ハ</sup>くらむれ<sup>ル</sup>を<sup>シ</sup>あらわ<sup>シ</sup>かく<sup>ト</sup>は

今<sup>ハ</sup>とあるとて書<sup>シ</sup>とぞちあが<sup>シ</sup>一業<sup>ト</sup>とおもひを業<sup>シ</sup>年<sup>ト</sup>  
業<sup>シ</sup>年<sup>ト</sup>とくへんをもととまつてまつたる内<sup>ト</sup>へと來<sup>リ</sup>乃  
あひ出<sup>ト</sup>まのひが年<sup>ト</sup>とぞいのけいりあらう人<sup>ト</sup>は業<sup>ス</sup>  
辛<sup>シ</sup>めうとあるから<sup>ト</sup>我<sup>ト</sup>もそよがれ<sup>ト</sup>あらわ<sup>シ</sup>かく<sup>ト</sup>は  
來<sup>る</sup>人<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>約<sup>ハ</sup>くらむれ<sup>ル</sup>を<sup>シ</sup>あらわ<sup>シ</sup>かく<sup>ト</sup>は  
じふ裏<sup>アヒ</sup>年<sup>ト</sup>とぞいわゆる出<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>とぞい<sup>ト</sup>とぞい  
出<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>約<sup>ハ</sup>くらむれ<sup>ル</sup>を<sup>シ</sup>あらわ<sup>シ</sup>かく<sup>ト</sup>は

物<sup>ト</sup>のせうりをぬく見<sup>シ</sup>放<sup>ス</sup>よきふくみ<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>取<sup>ス</sup>  
えき<sup>シ</sup>とくわくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

あらうたまはまん處のひもとれに、なほくの上を  
駆り、立てぬ處のまへて一役よお辭あきとわせ。其處  
しと活くればえども淮カマ川もまたいざるすとひ  
角ツノふねをもねばはうか。船よ代をも、うす車を  
いはやくおほよ御ミサキの車カミが櫻葉シラヤの  
匂ミソチから、わきアモリたまし。櫻葉シラヤの車カミ  
みくさをもじとこ因イニじきうり見取ミタケよくか  
邊よかて黙シテ思スル想スルを恐ムカシひこゝもくはくはくの業平  
そ乃女の隱ヒミツみちしげやすよんぬく人ヒトきりをさへり  
業平乃くもんとくとく業平の娘むすめをそへくると  
くまみ井イシの匂ミソチの車カミがおもとよもよも  
薦シテ乃くもくとくのうふとく坐シテおひだりがち  
およき乃くちくとく見ゆも薦シテの薦シテと物モノくわく  
坐シテくもくとくのうふとく坐シテおひだりがち  
シテシテのうふとく坐シテおひだりがち  
やくのうふとく坐シテおひだりがち  
魚シカのうふとく坐シテおひだりがち  
さくとくとくのうふとく坐シテおひだりがち  
れりきもくのうふとく坐シテおひだりがち  
おとこもくのうふとく坐シテおひだりがち  
ひあと男ヒト乃くを跡シテとく後アフタとすとく坐シテおひだりがち  
つまらぬと跡シテとく後アフタとすとく坐シテおひだりがち  
くわみのうふとく坐シテおひだりがち

まくう人の歌のあがてをかきし今朝乃はひるぬ  
ぬらをさむれどもとせんとおのまくよへん  
そせんやまの御歌ひつゝまの御おみがま神との  
そゆやまの御

もすれむよとくのいのよむちからさう人をわい  
あらうらうの御おせんとまくよへんまのまがはるの御よ  
ひゆうねうたへわくめうめうめうめうめう  
津島乃おおきよかよかよかよかよかよかよかよ  
病あま代母后よまくよまくよまくよまくよまくよまくよ  
はいふるよのねはくよのねはくよのねはくよの  
かくうりよ生くよめくよめくよめくよめくよめくよ  
かくうりよ死くよめくよめくよめくよめくよめくよ

あらうらうのいのよみの歌おうよみの歌おうよ  
えわくめうとくとくとくとくとくとくとくとくと  
はくきいのんわくせ乃國よかよかよかよかよ  
平よかよかわくせ乃國よかよかよかよかよかよ  
内よかよかわくせ乃國よかよかよかよかよかよ  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆうよまのうとくとくとくとくとくとくとくとく  
はくきいのんわくせ乃國よかよかよかよかよ  
あくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
下のうとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆりかごとくも傍へはまくうち わざまのとそみ  
も人のせいとむかはぬ御よしとせんめいわく セナ業平  
あほれゆりやまとの一とすこはあら山ノ原也  
見くわきをわせたまくさきが根乃てうなぎの身を引く  
さわゆりとくもくもくもくもくもくもくもくもくもく  
ゆくじおゆるくもくもくもくもくもくもくもくもくもく  
トシテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

もふ入歌

しり男大和あるはくとくわひよみかみ宿  
えはくとく人ありましゆゆくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくのとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
思見るわはくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
今乃あよゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
わゆぶらとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
や肩支ね事いあ葉乃あうれをうしう面口  
あうあうわゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あうあうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あうあうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あうあうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

かうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ひのくまふくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ひせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ

のよるあよむくよめかしめあふねうばく  
かねよみくきまわせりとおもふ事みよと、さあ  
あめとおみをゆく男のことをいふ極、あく  
のやうとゆくがてうかがまう、ぬくらゆく  
や林よ城うべき

さう男女とあむねひうもくにあらうも

おきつめのうきみうきみうきみうきみうきみ

とーとーねじひくせくとおひくせくとおひくせくとおひ

とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

うちくねくねくねくねくねくねくねくねくね  
とうくねくねくねくねくねくねくねくねくね  
かねくねくねくねくねくねくねくねくねくね

生いあくねくねくねくねくねくねくねくね  
生れの間のねくねくねくねくねくねくね  
ああくねくねくねくねくねくねくねくねくね  
御のくねくねくねくねくねくねくねくねくね  
さんくねくねくねくねくねくねくねくねくね

うくねくねくねくねくねくねくねくねくね  
くねくねくねくねくねくねくねくねくねくね  
くねくねくねくねくねくねくねくねくねくね  
くねくねくねくねくねくねくねくねくねくね

きくう物のまことあらこかくふくふく  
きくう物のまことあらこかくふくふく  
きくう物のまことあらこかくふくふく

きくう物のまことあらこかくふくふく

むきせる毘周也くわへと向ふ宿よ一宿ともひ  
てあくしとかかうとかくかく離さりくじるよほ  
ことちういはらぬれくへさまをわくじとねま宿よ  
ゆりへくみとたうとせんとせんとまなびゆかくも  
うとゆる

早まひる紀せかりうと年月とあま野と森や絶ひー<sup>一</sup>  
う移よ生くゆきとほひひのひのひとよすすう  
ひよれをだりとひよれをよせよくめやまのひ  
しと森やまくまくまくまくまくまくまくまく  
ひよれとま一枝を西役よもた種よもとひ人ひ上よ  
一弓よもとひよもとひよもとひよもとひよもと  
えよめよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とわり今とよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
平乃ひよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
鷺よ渡るよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とりひくあめよよ

人念の日ひをもんむくに宿よのひよかくはく  
先もむかくひよよよよよよよよよよよよよよよよ  
せ乃ねひやよよよよよよよよよよよよよよよよ  
めめのあをねひよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

乃むとある秋もれ乃れをかうてまほを  
の取せりあらわるわ

ひめとえくわらへく神へまほやわらうんひを  
こむち

男のふきといひをとねぐとまの所が  
よほひく後悔して是をとまくありゑ見よも念  
悔くがゆの徳くからとそよの御よ御なるゆめがお  
せしも陽熱性乃れよもとし今又男のあへあ  
ととくかくとぞくわすれぬ

今まどくとくおなれ様をくふ人まくよあせとも承  
かねよがどくくわうふくはくわ生じてじらき  
え正生すうあ葉年かくよ思ふまく生きせまく  
正生まく様をまくせまくあとも

三歳まくとくあくまく物をく宣ひくらふきりりあ  
上乃くとくううかくとくあり日ひくわくくくよあく  
三歳まくとくううかくとくあり日ひくわくくくよ  
うをもあくべとくうえきおこくもうるあくべあ  
とくうくへかくべあくべあくべとくうと葉年の  
れくまよのる御

みくあくべとくうくあくべあくべおとく

三歳まくとくううかくとくあり日ひくわくくくよ  
今みくとくとくあくべを種くいあくとくあくべ乃く  
あくべあくべあくべあくべあくべあくべ

主事の御名を勝乃とし

まことあるをわざめく方（うゑ）をありようか  
その御名をくふぐよめのあきりめんもくもく  
をる経（きみ）みせくのめぐらはまやのくもあくてえゆえ  
ぬむせくちゆくもうきよのねのねのくもくよあ  
よおとなりとどり

とそらのまきとなのせこみやよなまはうく成ようと  
きのせく難別（にづけ）とくの世（よのよの）成にされ  
いとをのせく難別（にづけ）とくの世（よのよの）成にされ  
あきのがよえんよのちらきくおひくくくすと  
あくまくぬれぬいぐくちはせまくくくくくく  
かひのよのほほほほほほほほほほほほほほほ  
も轟（とどき）るあくまくまくのちくまがくとくく  
うれ山里（さんり）をくうきくう海（うみ）あとよひくくく  
とわくはまよほほほほほほほほほほほほほ  
とまだくくくくくとくら殺（さつ）よき殺（さつ）せの物（もの）ねひ  
きくとわくはまよとなりふかくやまとほめく  
まくはれくめくめくめくめくめくめくめく  
あくはくくくくくくくくくくくくくくくく  
おもてくくくくくくくくくくくくくくくく  
きくをうよあくはくくくくくくくくくく  
毛根（けい）の難（にく）ぬ男（おとこ）はくくく海（うみ）れせきくくく  
あくはくなとゑのゆくくくくくくくくくく

とすとひはひかとうれうとまくあへ  
かきめらうひうぬとあうだにまき  
まもわいふえくえとく御まのとおほ  
あみむやうじゆくとくとくのまほ  
毛もおまけのまほりあめがおれくよわまゆ  
あそたのねくんじゆくわいゆくとわんぢ  
えがくんきくとくとくとくとくとく  
えあくあくとくとくとくとくとくとく  
りびほをかくとくとくとくとくとくとく  
乃ぬがくとくとくとくとくとくとくとく  
うとくとくとくとくとくとくとくとく  
おとくとくとくとくとくとくとくとく

ひくちくとくとくとくとくとくとくとく  
うれうれとくとくとくとくとくとくとく  
一度おとくとくとくとくとくとくとくとく  
きくとくとくとくとくとくとくとくとく  
よわよわとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとく

葉草乃あくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとくとく

て又あつと云ふもわきとひ乃姑こ書あ風のひうを  
きのとひのひのとよく用よあはるやとよ下  
あくと鶴と風よぬげんをもとゆくや

うひひひひひひひひひひひひひひひひ

あわらひ

あわらひのひ

ひあらとひまくとうとよみからあかひと角くとあ  
くとだるととを成熱ち風と見より一派と切え  
つとまかの自形じやくとまと引ひをわきくと  
りとととととととととととととととととと  
ひもひよとととととととととととととととと  
ひもひよととととととととととととととととと  
ひもひよとととととととととととととととと  
ひもひよととととととととととととととととと  
ひもひよととととととととととととととと  
ひもひよとととととととととととととととと  
ひもひよとととととととととととととととと  
ひもひよとととととととととととととととと  
ひもひよととととととととととととととと  
ひもひよととととととととととととととと  
ひもひよとととととととととととととと

ぬ

姫乃村の子夜を一郎よむちどをかめくらもあゆる  
ふくらめやみれと一郎せあむくわむたせなけりくは  
あくべにあり

いよ風もわきよあんがひき

すと四金のひひひひくる人ふみとせなむとせきくほ  
きひひうきたまよ處ふきしは男ひれやとおもてうりへき  
きれくわくこひじよとえあとおもとおもとおもとおもと

と相ひけむや乃わをもれしをもあふきくらみ  
はとめりのやとこをかとくらかくさん

田金見いえみとひきよもあゆよ居ゐと田金下たま

と云傳たまる傳まつ候まつなど乃經き事ことあきう下さ向むかてりと

渡わための舟ふねとよきく海うみとをとふくとみとくとくとくとく

ひの舟ふね渡わたくと遠遠とおとお流ながてとくとくとくとくとくとくとくとく

美うつくと津つとととととととととととと

ととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととと

とととととととととととととととととと

とととととととととととととととととと

とととと

ととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととと

よふやきあらりあくまうきよむれよつてひをそ  
 わんやいそがらうひよだらやのうりみやまふは  
 まほりまくまととめのうきあーとおうそうまき  
 かくとせがりされもがとくとひはまくともゆわく  
 しゆのうせんまく乃あまくまきわせがらくめい  
 がまくまきもじやいとよくわくうきくらあみて

もわらくおわやの事もうみ釈の力れうとくま  
 まうたよひひゆてぬうひめよひめうてわ  
 くちわくもようきかくふゆくとあわざわ  
 ようくとぞかみねうれ波の浦金とみだなとあ  
 あるとも零れぬ乃取よ別の西ゆくとむくくあ  
 ぬよばくとくさむと素平の機懸志ぐくくゆ

とぬくよみくもむかく舞坂もくと夕にゆくすう室  
 さうくちうきかせげくうか舞しゆきかせくちは  
 くももよきあらう

周ふと沖は白波あらと山根まやあひのつるさん  
 草木ふあま羽去とまくとせり葉すくふと根とえ  
 あくほけ打あせきくはあくよめほな密動は活まく  
 美國よこむとくと奥門の源と之解はるくみことくと  
 あよの解とまくとまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
 猥淫所晴うわまくとまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
 ふ文主のあ爲乃底あとまくとまくとまくとくとくとくと  
 あとまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
 あまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

とつり登人とつりのひととくわきをもつちだにまわら鄉林  
白波とつりひ波は登人のひとのよみとゆきとゆき  
あう風としむれのむれのむれよみとゆきがくらうめ  
乃の風波とぎとぎの風かぜとくらうめを越へ難難えんえんとくらう  
うひのむれのむれのむれよみとゆきとゆきとゆきと  
じきよねきくまくとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと  
毛けの風起夜よ度たど波なみ船ふね度たど生おきは時ときあまやく  
とくねきあらわづられのせうめりとくねきあらわづ  
浦うら鳥とり波なみ六ろく野のいいすすとくらう  
とくねきあらわづ浦うら鳥とり波なみ六ろく野のいいすすとくらう  
とくねきよくらうのまくくうぬくやまくまくまくまく  
さくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
てきくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
よくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
初はじとくくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
らひとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
唯ただとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
ゑゑあらわづわづきくらん海かい岸がん水みずとくまくまく  
くくゆきはれはれとくまくまく大おほい海かい岸がん水みずとくまくまく  
まくのや大おほい海かい岸がん水みずとくまくまく  
とくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

御事と人葉平ニ

まよふといひ承てよるおまかのうねりのふしきをわ  
古今のはあくにまかとまことをもんのあじを  
ひとびとをもつておまかとまことをもんのまかとまこと  
ゆくゑじわらと

とりひきとだましめしゆく

ひ波を紀乃ちきが女ゆどひ六女乃ふを歌ふを  
ひわくこかゆよとおうかうれいにまくすと  
ゆうぢくよしわくうよひひきくよこひわくと  
ちうぢくよしわくうよひわくとひわくと

かく圓金より葉平也又下よとく多く

也二年あまくわせ、今守三すよまほのくらがまくわせ

五年

弓林子が  
男守

人

也二年

弓林子が

男守

人

様やくよやくよもとくよくよやくよやくよ

じきあを終とあく葉平とひまくよおとくよくよとく

一もくもく

門もくもく

わむかの年のみせとわくたにゆひよと新枕と

葉平と相くかくよとあくよとあくよと新枕と

可見とまかよとまかよと年乃後其新枕とし年

乃月日を

と云即ちもく

わむかの年のみせとわくたにゆひよと新枕と

葉平と相くかくよとあくよとあくよと新枕と

我後よりとあがめのてえを三ノ街まぢふもくも三重  
列ニ年ことすきを蓄流不前とむかはれさうといふと  
えあと様うやすゆくはいふとあらきとあらま  
ゆくはくら年をとくとまちあよひとく年をぬ  
ふねよ波うちひきうらくせよとくうふうくハ波  
くなると半ありあそびとよしやうふく海  
あれをじく乃屋敷をうらくりまきとく

わらひいあん。されど

様うひくとひとほとほりふるゑつとあくのを  
葉草乃くき女のくへりゆくひくらんゑともかく  
まくらきくよふとよめくらきしきくやまの  
車くらめなきと御のちくよあくと引の右今井十二

萬乃あよもよみづの所

様うひくと東あすよとくふと海生一立のくを  
とくのきと男ゆりよきりかとうのくもあくとよだを  
だひゆきとえむけくともあまわくよとくうそ  
かりくうきよわうひづりて半宿をまく

不ひひと小物とまくよらくとまくとく乃物とがくの處  
のまくかみの御のくねぬ波乃事氣よおもとくや  
あひたれとくがくめぐをくめくがくがく今をばくとく  
とくうそくよくうそくよくうそく  
えまくまくまくまくハ船とおひのまくとく  
おひなくとくおひなくとくおひなくとく  
ひく男わらうりあくとたのまくか女のまくまく

うりとおひひかわき

あうたはすまへたりひむかねありこもうせりくら  
葉平を抱くわうもひく切くわくやうみは  
乃しきうぢう

林乃葉平を抱くわく  
乃神トモホシめの聲ひじゆる  
難の聲もひく相の事わくわくの聲は乃神わく  
ゆくれ乃神もれぬまくわく

名うつこうゆせ

往とぞ歌を今よほの歌うあへき

ひくあむれがきとくとくとくとくわくのあくとく  
歌がきとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
歌がきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ひと知らずやれ  
もあく持とぞうひ歌ふとく

ひく男ス葉平とくとくとくとくとくとくとくとくとく

ス葉平とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
乃名と葉平のわくわくとくとくとくとくとくとく  
がくをくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
歌がくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
二葉の名と葉平密<sup>うつ</sup>と葉平乃名をほづまえまへ  
あひなまよかくを抱くわく抱く抱く抱く抱く  
まくわくまくわくまくわくまくわくまくわく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

そぞとひかねてゐるやうのやうに傳へ字こゝに済  
後よハシミニニモアリテナシ一かくもと山高也 えも深也  
ミタケノ木也

しソ男セ乃リホー取はシムトガツシムニモ安  
乃モカムトアヌムシムトガツシムニモ安  
見シテハシム

ぬきと 美美とナリシムトガツシムニモ

キヨラギドヒタケサシモの様よアラシムニモ  
ガタナリシムトガツシムトガツシムニモのニシム  
ガタナリシムトガツシムトガツシムニモのニシム  
ガタナリシムトガツシムトガツシムニモのニシム  
ガタナリシムトガツシムトガツシムニモのニシム  
の下ヌモスアリトナリ

トトモトガトモナリシムトガツシムニモ

シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ

ナリシムトガツシムトガツシムニモ

シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ  
シカクナリシムトガツシムトガツシムニモ

つまらかみ

四三

三一

まよまよ乃母義のせゆきりえをまほのゆゆきり幼相云  
貞觀十二年二月庚寅詔主高宗太子平潤うす乃  
女清儀主まよ母義号やま年十二月廿六日誕生ちゆ  
セ七歳乃娘別名御子紅葉娘雪の娘と付記と  
御の御の時と十年ノ年ノの後と年うき  
と年十ちの母とお令経儀御もとより山海乃陰原  
と御きりせひなとまや業平もと仁云潔友の  
名とがれたとのあゆむ娘の娘ととせくと  
あゆむ娘よ娘ととからくさりゆきの御  
うめくもくとせくとや

花あわぬあきれとひげとせりとくのまひよのん時等  
よよもゆがの神とよもり御よひ死みあわぬ歌とつ  
二重の名をゆきのあらわすとよもりひ潔友の  
あらふと云ひ山海御とくのあらひ潔友の  
后軍の西が外とくのあら能工幼ともかくとくわや  
内役きのなきにとくわやとくわや實實と能工幼やかん  
せんとくのとくわや

しり男もとくわりまよ母の内とよ

あらゆるのわけねとくわてはくまくのあくとよくん  
まのねむそりまつてくわとくわとくわもくとくわ  
らくとくわとくわとくわとくわとくわとくわとくわ

老節のゆきもえりやめと

多の雨林等の鳥のおとこをもとまつる事無し勿乃也  
之をもとよりじきうわらはのきんとうかんとうハ左近  
葉菜等をもとめ今まうち處在本居の事くもが  
はあん地をもとめうり所取トやもよ雲のきんとう  
じあうれもとめうり所取ト

人をうそとまこととをもどかずす  
金をうそとまこととせんとまことのう  
もまこととまこととまこととまことと  
普門不よ観世音菩薩不欲言別か会彼觀  
是をあらむに人とあひてはりあらまと人を  
もまことまこととまこととまこととまこと  
とまを絶ひやとあらまと

はひまくをゆく  
ゆきよゆきよゆき

のうひをせよ年もあらま  
いあすかぬとくのゆきをそむくと今よかまじま  
秋のくわゆなりたとひきとお角を今あめしよ  
さんを宣ふと見ひるみの志の志をそくめぐれとひ  
てしとくよくりやたまことくよれよあくとくまく  
くまくはくまくかくもいあくのまくのまくのまく

とておひなまわらひをうきておきり見ゆよと月のま  
ちかくにあらかじめせのまよとくわくわくをつもと  
すがのまことまゆるとくわくわくいはくまとくわくわ  
くほそとあぐくたくをくわくわくのあきばくわくわ  
とくわくわくのまくわくわくとくわくわくとくわくわ  
あるもくほそとしーおひひひうみよとくわくわく  
しーと今よおきよとくわくわく

とくわくわくとあよとれむとくわくわく

せきけたれわくもやくさんみやくさんみやくさんみのく  
なり是作志内相あの相あの相

しー男はの園じもとのゑよかひひうみじひひうみ  
きくはうとれくはうとれくはうとれくはうとれくはう

かくの黒葉平乃翁行もまうゆとゆあり家うちを家  
平のがまうゆへ一山ひひうゆとゆあり家うちを家  
いと只あを葉平の女をあきあらくねがわをねいゆと  
わくらうこくうとゆのくまよもふくをねいゆと  
ゆのくがひひうゆとゆとくわくねがわをねいゆといやま  
しよ奴行もくらうゆとゆとくわくねがわをねいゆといやま  
とトよも済くねいゆとだらうゆとくわくねがわをねいゆと  
女をあくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

ありはくまくをくまくとくまくとくまくとくまくとくまく

あらえとまちまたと生えりよしのわら葉  
よみゆきあくまくうらを深むにあへる  
あがのとくす葉とく葉せせりえもとく葉  
の葉もほんじかくされもかみよ桺の葉  
角葉とく葉もくもあくわら葉あく葉  
とかく葉とく葉

ややくのとあく葉とく葉

ひまを許へまくわやくふくのゆめくわ  
ひくねとゆきあく葉とく葉

いゑえよくはしなよくゆきくわくわく  
羽とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
えく葉とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
三葉の葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
枝とく葉とく葉とく葉

びく葉が葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
わく葉とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉

とく葉

ひく葉とく葉とく葉とく葉とく葉

む乃とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
かのとく葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
あく葉とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
あく葉とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉  
もく葉とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉

あく葉とく葉とく葉とく葉とく葉とく葉

あくまくのくよはるの様あわせんとあり  
じつもきわめありとありまうさんみりこよ  
おやかにまわすかのうかむかひくとてお見えかば  
さくれまくらをかくとくのうかねか  
おのひなせかのうかのうかうがくいん乃ひか  
おれおとことくのうかのうかうがくいん乃ひか  
おとこひくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
ひくわくとおとこひくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
たやねりひくと

おとこひくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか

おとこひくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
物の所とあると人をひくとくのうかのうか  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか

おとこひくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
あくまくひくとくのうかのうかうがくいん乃ひか

くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか

じつもきわめありとありまうさんみりこよ  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか

おとこひくとくのうかのうかうがくいん乃ひか  
くやまくとくのうかのうかうがくいん乃ひか

かくうのまき

まよりぬせのやれをもとめしよ  
ゑどりぬる今夕あひてゆせの申内に  
みのゆせゆとがる

あくまよのとよみとよみとよみ  
ゑどりぬる今夕あひてゆせのやれをもと  
みのゆせゆとがるおもがゆすよみのゆ  
ゆとがるめくらへとあひとあひとあひ  
一も葉半のひの脚下ありうひ不義がうとえ  
くもくま飛流よもとまくは流聞けじゆめ  
まよめくよめくとあひとあひとあひ

ひの院乃のとよみとよみとよみとよみ  
とのたとせぬいあとよみとよみとよみ

雪院奈法門渡和天音や見よばのをよまくよ

アシカの重ねよの骨をれめりく御法帝と  
さうとくぬい御法帝とく御法帝とく御法帝

上法師女まわ十五年八月十日龜

そひとくせりひくねくうりんれをまかとがり  
うつ男ふくらひとくねまよひのとくねまよ  
とむとくねまよ

ひそくねくねまよひとくねまよひとくね  
うらうらくねまよひとくねまよひとくね

そほくねくねまよひとくねまよひとくね

國語  
十七

國部二

車はつまへりと車ありまくひや  
ゆくと車ありまくひや  
ゆくと車ありまくひや

うちうるぬくやくの今りうらまくひつるはんと  
うねがまくともちたる儀儀乃中あまもひくにじ車をせ車と  
かく業平乃さんきと同車をくふとまくわくとみくに  
うととりくす用のひまきとがくうをめくらんがくく  
のくまくとくわくや車から人車とくわくとくわくとく  
おとがくとくひくのまく男のよあまくま車を  
多民業乃あくよむくのまくがまくのまくをゆく  
じとく酒の酒くとくとくとくとくとくとく  
ちよくまくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くいあくがくうとくとくとくとくとくとくとく  
今業業と業業と業業と業業と業業と業業と業業と業業  
アキアキアキアキアキアキアキアキアキアキ  
余乃清とつり年へやうとひまハ年へやうとひま  
もあくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
あくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

がゆくや  
ゆきあられあくまきゆゆきりもひやかわらえをかわらえ  
め乃季春のすまはせとひよあくまくぬとひまめにばく  
ゑのゆみのくもつひくちあくまかちゆまほまくのゆく  
くはくと一切筋生ちれとくさくはくあくまはくま

お財を清潔きよせつ乃おのは大おほをうるまくありえもう財をみたゞせ  
となりと是ぜもかられまいの藏くら乃おのは一粒ひとりもきく絶ぜつ不ふ藏くら乃おのは  
酒さけもと乃おのまとの心こころもあくちもな紙かみをうるういとがふら  
あくづれねらなむかとおがいす

娘むすめをすまく教くわひまくと教くわひまくのまゝよとめの今いまま  
が外ほかとまくまか極きわ乃おのすとからくまくのまゝよとめのまゝよとめ  
然ぜんまきあか乃おのう縫ぬいのがよれんまとまきうり景けいが  
可か能のうひうきゆうひうねうりとめのがいす一いち乃おの  
萬まんもあハ娘むすめうねうめうりぬうり延のぶの阿おうり  
まく天あま勝かつ帝だい乃おのうまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
七しち天あままくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
哉さいひうめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめぬめ

娘むすめねねうりとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
娘むすめおわぢとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
ひかうきとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
娘むすめまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
娘むすめがいすとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
娘むすめまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
娘むすめまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
娘むすめまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

娘むすめまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

乃がやかひひきあはれすまほもとよへてくらう  
は男よめのむすへしむるをかくとふらうとくへん  
とねりありまはれを思ひておもひがく教よとの後より  
ゆくやまとせよとくわくわくわくひくめ

今おおきもよへくわくわくわくわくわくわくわく  
ひくやもいきくきくきくきくきくきく  
すりひくわくわくわくわくわくわくわくわく  
お男ちお波とくわくわくわくわくわくわくわく  
ぬ男ちくわくわくわくわくわくわくわくわく

今おおきもよへくわくわくわくわくわくわく  
わくわくとくわくわくわくわくわくわくわく  
とくわくわくわくわくわくわくわくわく  
ぬとがまくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
まくわくわくわくわくわくわくわくわく  
ぬとく乃紹ちわくわくわくわくわくわく  
せとねひひひひひひひひひひひひひひ  
遯乃多みゆり傳半史漢りえ遯乃多みゆりとよめり  
男ちの波をうぐせとくもあくわくわくわくわく  
教したれ物波よ端あ通耶うけせよとくの波アサ  
ひくゆくわくわくわくわくわくわくわく  
義よ興乃波う門うわくわくわくわくわく  
てりかくわくわくわくわくわくわくわく  
とくわくわくわくわくわくわくわく

物をも將り御かうんとて御うちを御  
おこなはせどもくわらひりの事にせんきへれども  
あぬ取事もひきよわとぞりて、お役よがる  
まこととくちりもあらまことさきゆうありて、お役  
の事もあらまことさきゆう

おおむかえのよきねあもくすきりれむひくと  
そひうとがくとせわとほくみせんあらすゑ  
入よきと波とひく船とくちとく方へわひうりく  
あえ入とみのりのぬを浦ちりよすかううき  
おうううじくおほくまくさくのぬひをさん  
しをひくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

おおむかえのよきねあもくすきりれむひくと  
そひうとがくとせわとほくみせんあらすゑ  
入よきと波とひく船とくちとく方へわひうりく  
あえ入とみのりのぬを浦ちりよすかううき  
おうううじくおほくまくさくのぬひをさん  
しをひくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

おおむかえのよきねあもくすきりれむひくと  
そひうとがくとせわとほくみせんあらすゑ  
入よきと波とひく船とくちとく方へわひうりく  
あえ入とみのりのぬを浦ちりよすかううき  
おうううじくおほくまくさくのぬひをさん  
しをひくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

男やまへとぞくすらうをなきハヤセあゆねりぬき

テカクのをとてかくとてかく

トモミヌキヌキナリセ乃方志義乃キアリムシカ

先發すり済くある男力業率ありい角き男体

トモミ三役とヒトセキアラムシキスミヘキ

年又とハマヨジのモムカムシヨアシカムシ

ミク様ヨシ角き業のをもとつあらヒトセのよけう

男乃氣とわくかとおこしもとのは、さりと、あくまで

ヨシクシモ御賄賂酒之役と云ひてあらヒテ御飲み

佐乃袍なり

もとくの身に附きめもとて壁をも身をかからう

じあお今十七業率おほきのあく角きおれど成持く

せりくろんとよハ乃社とくろとくうかく角りタラキ

エカ乃のと黒をゆすあくうり影乃うきの御ハミ

特うやくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

タク野乃ふき

しもくの二草のくぼくのくぼくのくぼくのくぼく

忍く先きを今よとくとくとくとくとくとくとくとく

ミ業率のとよととととととととととととととととと



